

# 整形外科のこの1年

整形外科医長 末永直樹

## 人事移動

平成9年は、故小林昌幸医長亡きあと1月から、末永、織田 格、西池 淳の3人で4人目の補充が無い状態で3月まで診療を行いました。また平成9年4月からは織田に代わり高橋宏明、西池に代わりその2年上の加藤竜男、山根慎太郎の4名のスタッフで診療を行ってきました。

## 診療状況

従来通り外来は基本的に予約制、午前のみで、再来を毎日、新来を月、水、金行っていました。1日の平均外来数は約150名であり、昨年とほぼ同様であり、外来診療を予約制で行っている結果と思われます。入院は5階西病棟の48床で対処しておりますが年間の入院数は前年比107%で、一人あたりの平均在院日数は23-30日、ベッドの利用率は同一日入退院制にしてから90-95%となっております。

## 手術数および内容について

手術数は496例でした。その内訳では、外傷が63%と一番多く、次に慢性疾患が31%、腫瘍性疾患が3%、慢性関節リウマチが2%となっています(図1)。部位別では大腿骨、下腿骨骨折などの下肢が27.8%と一番多く、次に手-23.2%、大腿骨頸部骨折などの股関節部手術-12.7%、不安定症、肩腱板断裂などの肩関節手術-11.3%、脊椎手術-7%、変形性肘関節症や肘部管症候群などの肘関節手術および四肢切断症例などに対する微小血管縫合を要する-3%でした(図2)。前年度に比べ脊椎外科を専門としている高橋先生の赴任により頸椎手術-3%が増えたことや多量の出血によるショックを伴う多発骨折例が多かったことが特徴的な1年だったと思われます。

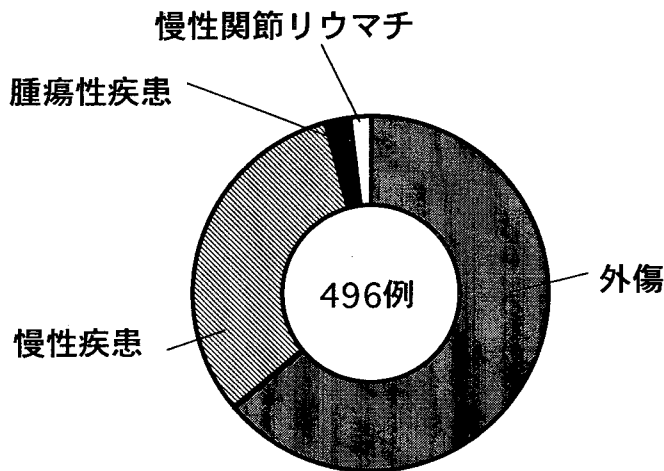


図1. 平成9年疾患別手術数

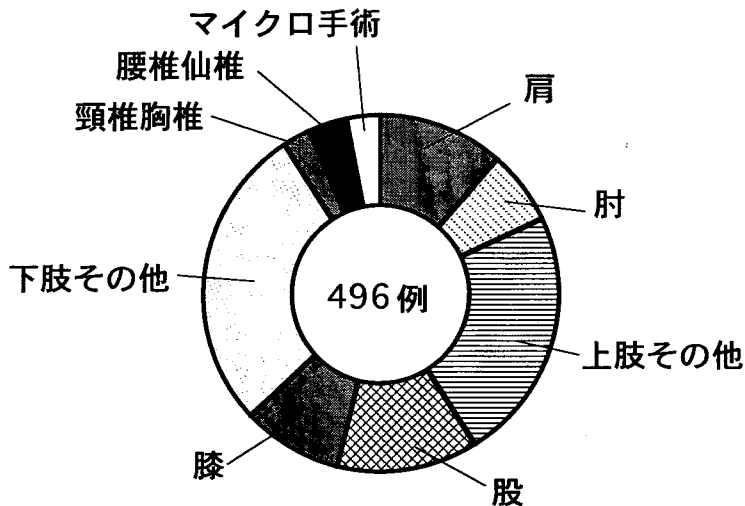


図2. 平成9年部位別手術数

#### 論文、学会活動について

論文は発行されたもの10編、in printが11編でした。学会発表は、全国学会-5題および地方学会-10題の計15題でした。今年度も同様により良いリサーチを行えるよう、努力していきたいと思っています。

#### 今年度の展望

当科スタッフが充実してきているので患者さんの要望に応えられるよう、予約外新患外来の開設、また、従来新患日ではなかった火曜、木曜の新患外来の増設、午後診療について検討していきたいと思っています。

## 脳神経外科のこの1年

脳神経外科医長 中井啓文

平成9年の患者数、手術件数は表に示します。外来新患数1683名は例年並みでしたが、入院新患数375名はこれまでで最も多かったようです。375名と言う数字は少ない年と比べると100名ほど多く、増加の要因としては急性期の脳梗塞、脳出血の患者さんをなんとかベッドをやりくりしてほぼすべて入院させたことと未破裂脳動脈瘤スクリーニングの為に脳血管撮影入院が多かったことが考えられます。治療の甲斐なく亡くなられた患者さんは21名で、疾患別内訳はくも膜下出血7

名、頭部外傷6名、脳出血5名、脳梗塞2名、脳腫瘍1名でした。

手術件数は171件でこれまでで最も多かったようです。内訳は脳動脈瘤クリッピング37件、脳腫瘍摘出術23件、脳動静脈奇形摘出術1件、片側顔面痙攣微小神経血管減圧術3件、浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術4件、頸部内頸動脈血栓内膜摘除術2件、開頭による血腫除去術15件であり、このような大きい手術が171件中85件を占めているのが特徴的です。例年より脳動脈瘤クリッピ